



ラーニングcommonsを利用する学生

教員特別研究（その他研究）成果報告書 | 配分研究費：1,277千円（平成30年度）

ラーニング・commonsのあるべき姿の検討

目的・概要

多くの大学でラーニング・commonsが運営されているが、うまく機能させるための工夫が求められる。本学にふさわしいラーニング・commons実現のために、あるべき姿を検討して実用的な提案を行うことを目的とする。両学部教員にゼミを含む教育活動を図書館・情報センター内で行ってもらい要望を挙げていただいた。

その意見をもとに独自性のあるラーニング・commonsを試作し、長期運用実験を行って具体的提案を行った。

期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

研究担当者

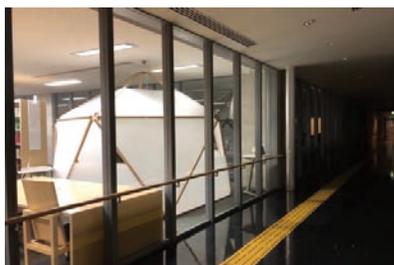
デザイン学部	デザイン学科	教授	宮田圭介（研究代表者）
文化政策学部	文化政策学科	教授	林 左和子
文化政策学部	文化政策学科	教授	野村卓志
デザイン学部	デザイン学科	教授	羽田隆志
デザイン学部	デザイン学科	教授	的場ひろし
デザイン学部	デザイン学科	准教授	亀井暁子
	情報室図書係	主幹	井出直樹

スケジュール	平成30年4月～7月	図書館でのグループワーク実験によるニーズ調査
	平成30年7月～9月	図書館での設置場所の検討とゼミルーム試作
	平成30年10月～平成31年3月	試作したゼミルームの運用実験
	平成31年3月	研究とりまとめ

研究成果

本学の図書館・情報センターの情報機器の設備更新時期に合わせてラーニング・commonsが設置できるよう、既存のインフラを生かして実現できる提案を行った。まず、両学部教員にゼミ演習を含むグループワーク活動を図書館・情報センター内で行ってもらい、教育活動を行う上での要望の聴取を行った。館内の集密書架室やグループ学習室での演習活動から、備品のレイアウト変更が難しいことが判明した。図書館・情報センターの設備更新時には、メディアステーションやデスクトップPCスペースのレイアウトを大幅に変更できる可能性がある。

そこで、グループワーク試行結果をもとに、ラーニング・commonsの設置場所と実現方法の検討を行った。どこでも5分で組立設置ができるドーム形状のゼミルームを試作した。フレームを構成する紙管の長さを変えて、空間の大きさが自由自在に変更できる。必要に応じて、ドーム面の素材や形状を変更して機能が変えられる。図書館の一角に設置したところ、予想以上に利用する学生が多いため、長期運用評価実験を行い、好意的な評価を得ることができた。



図書館・情報センター廊下側から撮影



ドーム形状のゼミルーム

今後の研究成果の還元方法

本研究のノウハウを含む研究詳細報告を紀要に掲載すると共に、図書館・情報センターの設備更新時のラーニング・commons設置案として提言する。

また、図書館以外でのラーニング・commonsの拡張性を検討するために、ラウンジなど学内各所に本ゼミルームを設置して運用試験を行う。